

## 10. 韓国・漢城大での国際シンポジウム 第六回 城北学学術会議 境界を越えて：地域学の交流と成長

井上 直樹

### 1. 歴史学科と漢城大学校との交流

歴史学科では、2015年11月、京都府立大学文学部と韓国・漢城大学校人文大学歴史文化学部（ソウル市城北區）との学術交流協定締結以後（2017年以後は大学間協定に発展）、教員はもちろんのこと、学生も2016年より漢城大サマースクール「韓国語短期研修プログラム」に参加し続けるなど、教員・学生を問わず、積極的に同大学との研究交流を続けている。

こうした活発な学術交流を前提として、2018年10月28日には「京都府立大学・漢城大学校交流締結記念事業」として、漢城大歴史文化学部の鄭好燮教授・李在碩教授を招聘し、歴史学科教員との国際シンポジウム「古代日韓関係と京都—倭と高句麗の交流」が京都学歴彩館・大ホールで開催された。

これをふまえて次に韓国・漢城大での国際シンポジウム開催が計画されたが、コロナ禍もあり、なかなか実現でないまま、時は過ぎていった。しかし、コロナ禍の終息にともない、改めて国際シンポジウム開催の機運が高まり、2023年、漢城大での国際シンポが開催された。

### 2. 第六回 城北学学術会議 境界を越えて：地域学の交流と成長

国際シンポジウムは、漢城大歴史文化学部・人文科学研究院と同大学が共同研究を進めてきたソウル市城北區の城北文化院との共催による第六回共同学術会議の第二部「日韓地域学研究の実例を通してみた城北学の発展と展望」として位置づけられ、2023年10月13日に、漢城大学校で開催された。歴史学科からは菱田文学部長が「京都府立大学の地域研究～京都学と丹後学～」、筆者が「京都府立大学歴史学科の丹後地域研究事例—京都のなかの日朝関係—」、諫早准教授が「古墳を地域資源化する—湯舟坂プロジェクトの軌跡と展望—」と題する発表を行い、京都府下における歴史学科の調査・研究の一端が紹介された。一方、漢城大歴史文化学部・城北文化院からもそれぞれ2名が報告を行い（城北文化院は共同報告）、最後に各報告者に対する質疑応答などを含めた全体討論が行われ、日韓の地域調査や文化財の活用に関する活発な議論が展開された。また、今後もこうした国際シンポジウムを通して、両校の研究交流を進めることも確認された。



写真1 全体討論の様子

#### 編集後記

フィールド集報の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの考古・建築・地理・文化情報の合同実習メニューとして学生が Adobe 社の InDesign を利用しておこなっている。

今年度は、3年ぶりに多様な場所・フィールドで調査をおこなうことができた。調査時だけでなくその後の作業においても多くの方々からご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。

海外の調査も徐々にではあるが再開されるようになった。来年度はまた違うところに行きたいと思う今日この頃である。(き)

---

京都府立大学文学部歴史学科

## フィールド調査集報 第10号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2024年3月30日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2

---